

平成29年6月号(245号)
(皇紀2677年)

編集人 瀬戸 開

新風

発行人 魚谷 哲央
年間購読料 2,000円

維新 政党 新風 本部
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル
第2ふじビル4階
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800
<http://shimpu.jp.org/>
otayori@shimpu.jp.org

尊皇とは何か

玉川博己 (三島由紀夫研究会代表幹事)

世にあふれる「尊皇」主義者

昨年八月八日の天皇陛下による「お気持ち」表明は、その後「生前御譲位」問題として議論を呼び、今や政府は特例法をもって御譲位を進めようとしてゐる。あの時我々があらためて感じたことは、天皇と国民の揺るぎなき紐帯と君民一体の国体の精華であった。しかしその後の社会状況を見ると、今や自民党から共産党に至るまで「象徴天皇制」を支持し、「生前御譲位」に賛成するといふ不可思議な現象が存在するのである。共産党はかつてのコミンテルン・テーゼ以来の「天皇制打倒」の方針を引つ込め、また従来ボーイコットしてきた天皇御臨席の国会開院式に出席するやうになり、拒否し続けてきた元号を「赤旗」紙上で容認、使用するやうになつた。そして共産党のみならず、日本の左翼、護憲勢力は「象徴天皇」こそが戦後の「平和と民主主義」の守護者であるとし、「象

徴天皇」を彼らの反戦平和主義のシンボルに祀り上げようとしてゐる。従つて、世には「承諾必護」や「国体護持」を唱へる俄か「尊皇」主義者であふれるといふ不可思議、面妖な状況を呈してゐる。

承諾必護とは何か

さてこの一年間の御譲位問題をめぐる議論の中で、「生前御譲位」賛成派がしきりに承諾必護を訴へたのは、むしろ、問題が彼らが反対派(慎重派)を批判することにあり、最近では新聞マスコミが「生前御譲位」反対派(慎重派)の言説を大御心や勅命に反する逆賊であるかの如き論調を展開してゐることも看過できない。これは十年ほど前まで盛んであつた皇統問題の議論において女系・女性天皇容認派が男系天皇論者を批判する際に、「女系・女性天皇は大御心によるものだ」とか「女系・女性天皇容認は勅命である」などと、しきりに「大御心」や「承諾必護」を声高に叫んだことを思ひ出させるものである。

追ひ詰められ「尊皇」に転向した左翼勢力

筆者の率直な感慨としては、戦後左翼勢力が反国体論や反天皇論、あるいはマルクス主義に依拠して戦後民主主義擁護の論陣を張つてきたのに対して、彼らが保護者として頼みにしてきたGHQもソ連や社会主義陣営もはや存在せず、また国民の皇室に対する尊崇意識が根強いことを痛感した彼らは、「象徴天皇」こそが戦後日本の憲法と「平

和と民主主義」の最大の擁護者と奉る姿勢に大きく「転向」してきたのである。従つて、我々としては世にあふれる自称「尊皇」主義者の中から、誰が真の愛国者であるかを見極めて、偽者と闘つてゆく必要がある。

最後に軍神・杉本五郎中佐の絶筆を引用して尊皇について

最後に軍神・杉本五郎中佐の絶筆を引用して尊皇について行との一致に努めよと御指導戴いた。その教へに悖る自分は若い頃の師の年齢を遙かに超えてゐる。未だその境地の足下に及ばない凡は哀しき哉。(板)

新風驟雨

しんぶうしゅう
▼齢九十一歳で師が天命を全うして十年になる。若気の至りで喧嘩に明け暮れてゐた頃、師は、「平素から横暴で気の荒いお前は、細心の注意をはらつて自分を卑下し、強固な歯の方が先に駄目になつて柔軟な舌の方が長持ちすることを忘れず、物事の汚れた所やいやな所を自分から引き受けて我慢し、賢人を尊敬し大衆を包容する姿勢に学んで、横暴で気の荒い性分が、すっかり消え滅んで、生死の理に通達し、天命を俟つて生死を任せ、道を守つて忍耐強く、発言は信を守つて変へず、曲がつたことをして幸いを求めることなく、正々堂々と幸いを享受して、強く奮励奮奮して、いかなる急難をも恐れおののく。確り目標を持ちひと時も漫然と過ごすべからず」と手紙を戴いた。▼また常々、肝は大きく心は細かく智は臨機応変に働かせよ、行ひを顧みよ。物事を言ふ前にそのことを実行しおほせるか否かをよく考へ、また実行しようとするれば、それが正しい考へに合つてゐるかどうかを慮つて言と行との一致に努めよと御指導戴いた。その教へに悖る自分は若い頃の師の年齢を遙かに超えてゐる。未だその境地の足下に及ばない凡は哀しき哉。(板)

本紙目次

- 一頁：尊皇とは何か
- 二頁：安倍首相の改憲案に疑義を呈す 他